

「今、私の晴雨計は！」①

「日銀マイナス金利考！」 1

平山征夫

スペシャルオリンピックスのこぼれ話を一つ。大会開催は私に思わぬ幸運を齎した。大会最終日が二月十四日パレンタインだったお蔭で、SOの理事長の有森裕子さん、ドリームサポーターの安藤美姫さんからチョコレートを頂いた。さらにサブライズ出演でアスリートにチョコをプレゼントしてくれたミシアの分もゲット。昨年の九十二歳の妙齡(妙な年齢?)の女性からというのも珍しかったが、本年は有名美女からということで格別だった。その分来年が心配だ。

ところで先月私の古巣の日銀が銀行からの預かり金(当座預金)に「マイナス

金利」を付けて世間をびっくりさせた。「その政策意図や影響がわからない？」と知人から問い合わせがきた。マスコミ報道も解説不十分でわかりにくい。心配しているうちに長期金利がマイナスになり、銀行が預金と住宅ローン金利を引き下げた。早すぎる反応に正直驚いた。今回の措置は、アベノミックスの異次元の金融緩和政策で、銀行の保有国債を買上げた代わり金が当座預金に積み上がったまま、本来の狙いである企業への貸し出しに回らないため、デフレ脱却にあせる日銀がマイナス金利をつけて追いつけしを図るとともに、一段の金利低下で円安・株高を狙ったもの。しかし、企業の借入れ需要は弱く、貸出での運用増は困難とさっさと見切りをつけ銀行等が結局また国債を買うしかないというに走ったため、国債は値上がりし、長

期金利はマイナスになったという因縁話のようなことが発生したのだ。説明をややくしくしているのは、日銀の当座預金が三段階の異なる資金で積み上がっているからだ。元来は準備預金制度で定められた預金を置くだけ。それは無利子だから、この積みせ方を増減することで銀行収益や貸出金利に影響を及ぼす金融政策としての準備預金政策による支払準備の部分だ。長年これだけだったのだが、二〇〇八年リーマンショックで金融機関に倒産という信用不安が生じたため、市場で資金調達出来ない銀行のため日銀が資金供給を大幅に増やさざるを得ず、そのあおりで市場で運用出来なくなった出し手の資金を預かる「補完当座預金制度」が生まれ、これには市場運用との見合いで0.1%付利してきた。この説明は面倒だからマ

スコミ等は殆ど省略している。同じ日銀当座預金にゼロ、プラス、マイナスと三種類の金利の違う預金が生じているからややこしい。更には資金の取り手向けに「補完貸付制度」があり、これで借りる場合は0.3%と定められていて、短期金融市場の金利はこの二つの金利の間で変動するようになっていいるから、一般的にはもう理解不能だろう。今、こうした日銀の政策を巡って「黒い日銀」と「白い日銀」ということが言われている。黒田現日銀総裁のマイナス金利を含むリフレ政策を支える現役日銀マンなどを「黒い日銀」と言うのに対し、白川総裁時代の政策などを支持、ないし現政策に批判的なOBなどを「白い日銀」と言うのだそうだ。この分類でいけば私は立派な白い日銀だ。その理由などは次回述べよう。

(平成二十八年三月二十二日)